
【A person with supernatural power】

つよし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【A p e r s o n w i t h s u p e r n a t u r a l p
o w e r】

【Nコード】

N4967L

【作者名】

つよし

【あらすじ】

この『世界』には「supernatural power:超能力:略して、SP。」が存在する。

そのSPを使った犯罪者や『世界』の歪みから出て来た悪魔がこの世界には溢れ、世界の人々は恐れている。

『世界』から力を与えられた少年は力を上手く使える用に学び、命

懸けで戦った。

少年から青年に変わり社会に出た彼がいままで学んだ事を活かし活躍していく。

恥ずかしながら初めて小説を書きました。

色々アドバイスや感想など感じた事をコメントしてくれたら幸いです。

1話1話皆さんに楽しく読んで頂けるようにがんばります。

よろしくお願いします。

m (—) m

プロローグ

この『世界』の人々には、『Supernatural Power：超能力』略してSP。

そしてそのSPの力を使う為に必要な、『Blood・Force；生命力』略してBF。が当たり前のように使われている…。

能力の種類は様々で、手の平から炎や氷の塊をだしたり、はたまた手をがざただけで傷口を瞬く間に治したり、何キロメートルもある距離を一瞬で移動したり様々な多くの力がある。

世の中イイ人間ばかりではない。自分の能力の魅力にとりつくかれ、悪用する人間もいる。

そしてこの『世界』には『歪み』という現象が出現し、『悪魔』という存在がいて人々殺し、生命力奪う。

人間の生命力の強さはSPの強さと言われ、ランクが高ければ高いほど生命力は強い。

また『悪魔』は人間の生命力を喰らい進化、成長していく。

進化した悪魔は恐ろしく強い。そして強い生命力の欲しさに人間を殺し生命力を求続ける。

SP犯罪者も増えていき犯罪率の上昇、治安の悪化も激増した。

この危機的状況を世界各国の政府は頭を抱えた。一つの打倒作として各国のSP保持者は小さい頃から能力の危険性を勉強させ、より強いSP保持者は専門の軍事学校を入隊させ。悪魔や犯罪者に対抗

できるように力をつけさせた。

そしてこの世界の平和を取り戻してきたようにおもえた。

だが平和は長く続かない。

より強く頭のいい悪魔が現れたり、SP犯罪者集団が党組んで戦争を仕掛けたり、危機的状況はさらに悪化してきたのだった。

でも平和を取り戻したい人々は諦めず、SP犯罪者や悪魔に屈しないように対抗組織を作って抵抗している。

そしてこの危険な世界に生を受け、命のはかなさ、大切さを学び、一人の青年がこの世界の未来を変える為に立ち上がった。

1話

季節は春

駅前のロータリーを抜け、改札口の券売機で東京行きのキップを購入した。

日本の中枢である東京はSP犯罪者の逮捕率や悪魔の出没率が非常に多いので治安がよくなり、非常にこれから住む街は安全なのかなである。

……まったく。ある人の紹介で仕事が決まったけど、SPセキュリティコンサルタントってどんな仕事するんだろうか……。あのちゃんと説明してくれてないし。

電車に乗りながら、最近まで連絡を寄越さなかった人に少し腹を立てた。

5

急に連絡が来たと思ったら、『やあ！総一君！明後日入社式だから引越しの準備など早めにしてくれよ！？バイバイ』って……。

まあいつもの事で慣れたけど。

）

最初は祖父が在籍していた軍隊に入るつもりだったけど、あまりにもSP軍事専門学校の時の先輩がしつこいので折れてしまった。

SP軍事専門学校の時に、チームを組んだり、色々とお世話になって頼れる人だったし、相談にもものってもらっていても仲がよか

った。

『ねえー！私の会社に入りなよ。いいだろう？？いいって言うてくれー！私は総一君の実力買ってるんだよー！頼むよー！！もう返事は、『YESか、はい』しか受付ない！』って……。

まあ、はい。と言っちゃったんだけどね。

内心苦笑いである。

先輩こと、内波佳奈さんは二つ年上で23歳。艶のある黒髪の長いストレート、整った顔だし、自己主張の激しいボディ、後輩や仲間達に慕われていて、明るく活発的で頼りがいがある人。

得に印象的なのはあのパッチリとした目だ。くつきり二重で少し吊り上がっていて、キラキラしている。

けど、少し変わった部分や抜けてる所もあり数々の伝説を残している。

しかしそんな彼女はSP軍事専門学校のマドンナ的存在だった。

まあ楽しい人である事は間違いないし、よく軍人時代に飲み誘われ一緒にいった。その度に仲間の男達に陰湿なイジメを受けたが……。

まあそんなこんなで指定された駅に着いたわけだが……。

ホームに降りたらすごい人の数。

ヒヤッ。

こりゃあ荷物抱えて歩くのは大変だな。

「あれ？いないなあ？」

東口前に着いたのだが、先輩らしい人はおらず携帯をとりだして電話を掛けた。

ブルルルー

「…………。もし『おはよう！！総一君！！今日もイイ天気だねっ 朝一番に私にラブコールだなんてそんなに我慢できなかったのかい？もうすぐ東口のロータリーに着くから待っててくれよう！？あっ！！ちなみに東口にあるベーカリーは私のオススメだからねっ！！ちなみに私が好きなのはミルクーフランスなんだよ！？あのパンの何とも言えない甘さが堪らないよね！？解るかいい！？解るだろう！？よしよし！！えっ？何だっ！？私の為に買ってきてくれるって？？ そんな悪いよ！？別に催促してる訳じゃないんだよっ！？じゃっ！もうすぐ着くから待っててくれたまえー！！私のミールキーーちゃーん ブツ』…………」

一方的に会話をされ電話を切れた。

…………うん。

何だろ急なこの不安感。

顔を上にあげ東京の空を見て思った。

…………婆ちゃん、爺ちゃん。家に帰りたいですと。

しかし、ここまで来てしまったのだから今更帰る訳にいかないので、

先輩を待つことにする。

東口のベーカリーに行き、ちゃかりミルキーフランスを買って。

ま、まあ何だかんだ先輩のお願い？を聞いてしまう俺。

取り敢えず、婆ちゃんに貰ったネックレスを弄りながら先輩の事を待っていた。

俺、『春咲総一郎』は、今年の冬にSP軍事専門学校を無事に卒業でき、今年の春から社会人になった。

ここまで育ててくれた祖父母には物凄く感謝をしている。

小さい頃に母と父は離婚し、母は双子の姉を連れて姿を消してしまっただ。

8

数年後、日本に大量の悪魔が出没し、父は俺を守る為に悪魔と戦い、その時に致命傷を負ってしまい病院に運ばれたが死亡。
その時の記憶は今までも残っている。

病室には他の患者も大勢いてあちらこちらで、悲鳴や苦しそうに叫ぶ声が聞こえる。

血ヘドを吐きながら歎き苦しむ人。

全身火傷で皮膚が焼き爛れるてる人。
体の一部分がない人。

その時まだ小さかった俺はまるで地獄にいるような感覚でその光景を涙を流しながら震えていち。

怖かった、凄く怖かった。

でも後からきた祖父母に抱きしめられ、「大丈夫、大丈夫だよ。私達のお家に帰りましょう」と優しく声を掛けられ、抱きしめられながら祖父母の家に向かったのを覚えている。それから一緒に暮らし始め、祖父には厳しく鍛えられ、祖母は優しく可愛がって貰った。

祖父、『春咲洋三』は元特殊部隊の隊長で『三段』のSPランク保持者。

祖父との訓練はとても厳しく、たびたび逃げだした俺は、愛と言う名のゲンコツを貰っていた。

今年で70歳っていう年齢にも関わらず今でも一緒に訓練し、「まだまだ若い者には負けん！」意気込んでいる。

元気のいい爺ちゃんだ。

祖母、『春咲美由紀』は

『一級』のSPランク保持者で、医療関係の仕事をしていた。訓練で怪我した傷をよく婆ちゃんのSPで治してもらってた。

本当に優しくいつも俺に甘い祖母は、いつも祖父に怒られてる俺を庇ってくれり、逆ギレし祖父を逆に怒鳴ったり。

逆ギレされた時に、オロオロとした祖父表情は今でも忘れられない。

そんな優しい祖母でも一回揉めたことがあった。

俺はSPランクが中学生の時、すでに『初段』で高校に進学しなくてもSP軍事訓練機関専門学校に入隊出来るので、するつもりだった。

しかしSPランクが『初段』以上の保持者は例え新米の隊員でも戦

場に駆り出される事がある。そのぐらい、日本の治安が悪く、悪魔の出没率が多かった。

その時の俺は力に飢えていたのか、それとも無鉄砲だったのか解らないが早く戦場に立ちたかった。

しかし、祖母はどうしても許してくれず、言い争いになってしまい「私は絶対に認めません！争い事になんてまだまだ関わらなくていい！！わざわざ死に行くような真似をするなっ！！」と初めて、物凄く怒られてしまい祖父に何とか宥めてもらい、話し合いの結果、高校卒業後に入隊する事になった。

その後、祖母の部屋に呼ばれ

「総一はまだまだ子供なの。そんなに焦らないでもっと命を大切に考えて頂戴。それに貴方の心はそこまで強くない」と涙を流しながら説得してくれた。

その時に俺は祖母からネックレスを貰い、お守りにしている。

確かに今考えたら昔の俺は馬鹿だったと思う。

時間とは、とても大切な物で高校生の3年間で本当に考え方が変わった。

高校でもSPやBFの訓練があるが、

祖父との訓練で命懸けの戦いとは何たるものかを、訓練しながら祖父から教えてもらった。

高校を卒業し、SP軍事専門学校に入隊して卒業までの3年間は本当に苦しかった。

厳しい訓練、SP犯罪者や悪魔との命懸けの戦い、さっきまで隣で

笑い合つてた者が簡単に命を落とす。

そんな命のやり取りなんて14歳で堪えられるはずかない。
祖母が説得してくれた理由がこの時に解つた。

ブッブー

「そーいちくーん!!」

クラクションの音がなり思考を中断させ、ロータリーの方向にむくと、黒いセダンが一台停まっております助手席の窓から、先輩が素敵な笑顔振り撒きながら手ブンブンを振っていた。

多分これから始まる仕事も命懸けの仕事だとそんな予感がする。
沢山の血がながれ、沢山の人が亡くなる。

そんな悲しい現実を実現させたくない。

手を強く握り締め、先輩の元へと足を向けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4967/>

【A person with supernatural power】

2010年10月9日07時53分発行